

都留市の歴史(4)

和同開珎出土、三ノ側遺跡

三世紀後半(今から一七〇〇年程前)から四世紀にかけて、近畿地方を中心に前方後円墳、前方後方墳という弥生時代の墳墓とは格段の差がある大規模な古墳の造営が始まりました。古墳時代の始まりです。

弥生時代に農耕技術の発達に伴い、いくつかの水田経営の単位が集まり、水田の造営や灌漑用水路、排水路による水の管理などを中心とする地域的な集団(農業共同体「ムラ」)が形成されました。

やがて、これら地域集団間の抗争と統合が進行し、有力なムラが支配集団として他のムラを従属させることにより、より大きな政治的な地域集団が成立したと考えられています。そして、この政治的地域集団の長である首長の墳墓として古墳が登場したと考えられています。

関東地方においても各地域の大・中河川を望む台地上に、それまでの墓とは比較にならないほど大規模な墳丘と埋葬施設・副葬品をもつ前方後円墳、前方後方墳が四世紀初頭頃に出現しますが、前方後方墳が前方後円墳にやや先行して出現する地域が多いようです。

内部の埋葬施設は、木棺を粘土床に、あるいは直に置いて納めた



もの、さらに粘土に包んだ粘土槨をつくるものなどがあります。

副葬品としては、鏡や各種の石製品、鉄製の刀剣、槍、鏃、甲冑などの武器・武具類、硬玉製の勾玉、碧玉製管玉などの玉類、鉄製の鎌、鋤、斧などの農具類等があります。

六世紀頃(今から一五〇〇年程前)になりますと、内部施設に横穴式石室を構築し、追葬を行うようになりました。

副葬品として、この頃より金銅製の馬具類や須恵器などがみられ

るのが特徴的です。また、墳丘の周囲には、人物、動物、器材などの各種埴輪が樹立、配置されるようになりました。

七世紀から八世紀の始め頃に、古墳文化の終末を迎えますが、各地に多数の円墳による群集墳が形成されます。

山梨県内では、四世紀頃東八代郡中道町の銚子塚古墳や大丸山古墳などの前方後円墳が出現しています。内部施設として木棺を納めたとみられる堅穴式石室を持ち、多数の副葬品が納められ、畿内の古墳と共通した様相がみられます。その後も後期、終末期へと古墳の築造が行われており、山梨県内全体としては古墳文化としての継続性をうかがうことができます。

一方都留市域では、現在までのところ古墳そのものは、まったく発見されていません。

これは、当地域が水田耕作による本格的な農耕には不適な土地として、大規模なムラが形成されなかったことによるものと考えられています。

市域に遺跡が増加するのは、奈良・平安時代になってからです。

特に、平安時代の遺跡は、二十か所におよび、律令制の時代に至って再び市域の開発・居住が行われたこととなります。

これは、古代における農耕技術の著しい進歩によって水田経営が可能になったためか、または、畑作などの新しい農業経営によるも

のか、今後の研究課題ですが、いずれにしても古代に農業生産の基盤が形成、確立されたことによりこの都留市域も歴史の舞台に登場することになりました。

この時期の遺跡に、三ノ側遺跡があります。昭和五十六年に、岡島ファミリーコ(現在のパワーセンター都留)の建設に伴い調査が行われ、奈良時代の住居址三軒、平安時代の住居址三軒の計六軒が発見されました。

これらの内、奈良時代の住居址からは、土師器、須恵器と共に、日本最古の貨幣である「和同開珎」、奈良時代から平安時代に鋳造された皇朝十二銭の内、五番目に鋳造

された「富寿神宝」の二枚の銭貨が出土しました。

当時、地方においては、銭貨はほとんど目にするものがなく、また、流通もしていなかったといわれております。都のみやげとして持ち帰ったものでしょうか。

また、同遺跡からは、青銅製の小壺や、時代は下りますが、十三〜十四世紀の所産と思われる舶来の青白磁器が出土しています。

これらは、古代から中世にかけて、この付近にかなりの有力者がいたことを物語るものであります。

詳細については、資料編「地史・考古」「通史編」をご覧ください。

「国民年金基金・相談コーナー」開設のお知らせ

国民年金基金は、国民年金に上積みする公的な年金制度です。国民年金基金への加入のご相談・ご質問をお受けします。お気軽にご来場ください。

日時 7月17日 9:00~16:00

会場 市役所 第一会議室

問合先 山梨県国民年金基金 ☎0552(35)1083

市民課国民年金係

◆加入できる方は国民年金の第1号被保険者の方です。

◆国民年金基金の5大メリット

- ①公的年金だから安心
- ②掛金がお得
- ③受け取る年金、支払う掛金の両方に税金の優遇
- ④何口からでも加入できて、増減も自由
- ⑤人生80年時代の老後を保障する終身年金